

# 施策評価表

1次評価日（課長等）	26年10月 日
2次評価日（部長等）	26年10月 日

## 1 施策の概要

施策名	商業の振興	コード	2-1
この施策の主な内容（細施策）	①にぎわいのあるまちづくり、②商業環境の整備、③商業者、関係団体の育成強化		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	個性的で魅力ある個店の育成、商店街の振興を図る。		
担当部課	部 経済部	課等 商業観光課	作成者 小口典久

## ●施策の実施内容（D0）

### 2 施策指標の達成状況

\* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：25年度）

施策指標名	単位	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 年間販売額	億円	1,454		1,510		0.0%	1,510	1,500
指標説明	イベントなどによる集客企画と合わせ卸売業・小売業の年間販売額の維持増加をめざす。H22・24・25は統計無し							
② 中小小売店舗活性化補助金利用件数	件	8	18	8	17	212.5%	11	18
指標説明	店舗改修により経営を継続する店舗を増やすことにより、空き店舗への新規出店を増やすとともに産業振興につなげる。							
③ 岡谷TMO販売促進事業補助金	件	31	29	35	29.0%	0.8%	35	35
指標説明	商業会活動が促進し、まちのにぎわい創出が図られると補助件数が増える。							

### 3 施策全体にかかる合計コストの推移

\* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）
直接事業費	227,508	300,776	221,417	238,233
人件費	35,520	35,520	35,520	35,520
合計コスト	263,028	336,296	256,937	273,753

## ●施策の評価（CHECK）

### 4 施策の現状評価

\* 25年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

大型スーパーの出店など商業環境が大きく変わる中で、空き店舗への出店改修費や家賃の助成により5件の新規出店があり空き店舗の解消が図られた。  
一方で、既存商業者には経営者の高齢化や後継者問題があり、個店の魅力づくりや商業組織の強化が進まない状況にある。また、中心市街地の商業活性化を目指す岡谷TMOの活動も十分とはいえず、将来的な展望も含めて施策の検討が必要となっている。

\* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	商工会議所と連携した岡谷TMOによる中心市街地活性化とコンパクトな街の利便性がある。
岡谷市の弱み	大型店の出店が相次ぎ、大型店売り場面積比率が増加している。また、経営者の高齢化と後継者問題から事業の継承が難しくなっている。

### 5 今後の外部環境の変化

\* 27年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	まちなか観光の推進や商業イベントの人出により、新たな誘客による商業への波及効果が期待できる。
不利に働くもの	消費税の増税により一時的な駆け込み需要が見込めるものの、長期的な消費の低迷が懸念される。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成27年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

\* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由  
 \* 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	市内大型ショッピングセンターの建て替えが予定されるなか、イルフプラザやラオカヤへの出店誘致が課題となっている。また、意欲的な若手経営者が店を展開し継続できる環境づくりが必要であり、魅力ある店舗づくりと商店街の組織も含めた活性化が急務となっている。
見直しを行う分野	岡谷TMOを通じて支援する従来からの販売促進イベントは、組織の弱体化や担い手不足から、より効果的な配分の見直しが必要である。また、商業組織のあり方についても、今後の商業環境の変化に対応できる体制への見直しの検討が必要となっている。

●27年度の優先度

\* 事務事業の方向性が「継続」の事業についてA～Cにランク付け  
 A：拡大、B：現状維持、C：見直し、－：廃止・完了・統合

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標				妥当性	方向性	優先度	
					指標名	単位	23年度	23年度				23年度
							24年度	24年度				24年度
							25年度	25年度				25年度
							26年度	26年度				26年度
1	公共施設	なし	イルフプラザアミューズメント施設管理事業	ミーティングルーム稼働率	%	30.1	8,206	3,440	標準	継続して実施	B：現状維持	
						39.3	7,840	3,440				
						39.3	8,187	3,440				
						39.0	7,969	3,440				
2	公共施設	なし	中央町市営駐車場管理事業	施設稼働率	%	100.0	26,777	5,520	標準	継続して実施	B：現状維持	
						100.0	26,767	5,520				
						100.0	26,312	5,520				
						100.0	27,900	5,520				
3	公共施設	なし	イルフプラザ管理事業	施設稼働率	%	100.0	134,197	6,080	標準	継続して実施	B：現状維持	
						100.0	200,077	6,080				
						100.0	125,840	6,080				
						100.0	135,457	6,080				
4	公共施設	なし	ラオカヤ施設管理事業	施設稼働率	%	100.0	53,506	7,200	標準	継続して実施	B：現状維持	
						100.0	54,914	7,200				
						100.0	53,218	7,200				
						100.0	60,047	7,200				
5	一般	なし	商業振興事業	子育て応援協賛店利用者数		2,400	84	7,200	高い	継続して実施	B：現状維持	
						—	0	7,200				
						—	0	7,200				
						—	0	7,200				
6	一般	なし	中心市街地活性化事業	補助金交付件数		13	4,158	1,760	高い	継続して実施	A：拡大	
						18	10,648	1,760				
						17	7,330	1,760				
						11	6,330	1,760				
7	一般	なし	蚕糸業対策事業	シルクフェア入場者数	人	1,359	580	4,320	標準	継続して実施	B：現状維持	
						931	530	4,320				
						1,707	530	4,320				
						1,700	530	4,320				
8												
9												
10												